

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
理事長	八木原 俊克(6月退職)
部長兼 ICU/CCU 部長 兼医療安全管理室副室長 兼心臓センター長	船津 俊宏
医 長	横山 淳也
医 員	西條 史祥

—概要—

心臓血管外科では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈瘤、弁膜症合併不整脈、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など、心臓大動脈、末梢血管を中心とした多様な病変に外科治療をおこなっている。近年、こうした循環器疾患の治療を要する患者さんは、高齢化、他疾患の合併などから、ますます病態は複雑化し、ハイリスクとなっている。これらの患者さんに対して、単に手術を行って生命予後を改善するばかりではなく、術後の活動性や生活の質を保つことも重要な課題である。われわれは、心臓センターの一翼として、循環器内科、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士、臨床工学士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、急性期診療に取り組んでいる。また慢性期の日常臨床においては、かかりつけである実地医療の先生方(病診・病病連携)と密に連携し、退院後の全身状態の把握や管理に努めている。

当科では、従来の冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、大動脈、末梢血管手術に加え、大動脈ステントグラフト治療も大阪大学心臓血管外科の支援のもと、高齢者中心に定着した。また当院で対応困難な、経カテーテル大動脈弁置換や重症心不全の患者さんに対する植込み型補助心臓等については、大阪大学関連施設への橋渡しをおこなっていく。

—実績—

2020年度に、りんくう手術室および救命手術室、りんくうICU、救命ICU、救命アンギオ室でおこなった全手術数は、前年度より17例減少の185例であった。開心術およびその他の内訳を以下に示す。

冠動脈疾患	27例 <sup>※</sup>
弁膜症	46例 <sup>※</sup>
胸部大動脈瘤(開胸手術)	17例 <sup>※</sup>
胸部ステントグラフト内挿	6例
急性大動脈解離	10例 <sup>※</sup>
心筋症、その他開心術	2例
末梢血管手術	28例
腹部大動脈瘤(開腹手術)	12例

腹部ステントグラフト内挿	10例
その他手術	47例

<sup>※</sup>重複あり

—今年度の成果と反省点—

昨年度、循環器内科とともに導入した新しい補助循環装置Impellaは、今年度当科では心筋梗塞後心室中隔穿孔の重症例での術前術後管理に用い、有用な補助効果が得られた。

今年度も従来の予定、緊急の心臓血管外科手術に加え、救命救急センターへ搬送された外傷症例にも積極的に対応し、救命診療科医師と連携して手術をおこなってきた。

学術的には、学会発表をおこなったが、コロナ禍で主要学会がウェブ開催となり、アクティビティは論文発表がなく不満足な年度であったが、次年度には学会発表や論文の作成に尽力したい。

月1回救命救急センターと心臓センターの合同カンファレンスを、また週1回心臓センターカンファレンスをおこない、連携を深めるとともに、多職種が意見交換できる症例の検討会をおこなっている。

—来年度への抱負—

主に高齢者を対象とした低侵襲手術として従来おこなってきた、大動脈疾患に対するステントグラフト治療に加え、来年度は右小開胸による僧帽弁手術(いわゆる MICS 手術)を導入し、救命はもとより、早期退院、早期社会復帰を目指した手術治療をより一層展開していきたい。

また来年度も引き続き、泉州地域の患者さんをもらさず当院で治療することを目指し、外来診療の強化、地域連携の強化から、手術症例数の増加を図りたい。

